



11月3日(月・祝)に、富山市内のインテックビル タワー111において「立山砂防と世界の防災遺産」というテーマで国際フォーラムが開催されました。

フォーラムでは、立山カルデラの歴史的砂防施設群について、その世界的な価値を国内外の有識者の方々を始めとして、広く県民の方々に強くアピールし、砂防に係る知識や防災意識の向上に資することを目的に開催しました。

- 開会 開会挨拶(石井富山県知事)
来賓紹介(麻島富山市教育長、入江北陸地方整備局河川部長、中川上市町副町長)



石井富山県知事の挨拶

【第一部】

- 基調講演 「世界遺産登録の現状」
講師:アルフレッド・ルイス・コンティ(アルゼンチン)ユネスコの諮問機関(イコモス)副会長
- 映像上映 「立山砂防 ～世界遺産登録を目指して～」
- ユースプログラム発表 「立山砂防の世界遺産登録に向けて」

フォーラム会場の開催状況



アルフレッド・ルイス・コンティ氏
(イコモス副会長)
世界遺産条約の歴史、意味や世界遺産の推薦の最近の傾向を講演されました。
登録推薦を進める今後の富山県の取り組みにおいて大変参考になる内容でした。

ユースプログラム発表



学生目線から立山・黒部の世界遺産登録に向けた取り組みについて議論しました。
参加者を代表して3名の大学生がフォーラムで登録に向けた提案を行いました。
提案①:砂防についての教育の実施
提案②:映画などメディアを活用したPR

8月22日、ユースプログラムメンバーによる白岩堰堤視察





【第二部】
 ■講演「立山砂防と世界の防災遺産」
 講師:石井 隆一(富山県知事)
 ■パネルディスカッション 国内外の専門家、石井富山県知事

石井富山県知事による講演

立山の砂防は、防災とエコ(自然)をうまく両立させている事例である。
 立山カルデラの防災遺産と類似する世界の資産があるか比較分析調査を行いました。



石井 隆一 (富山県知事)

パネルディスカッション



コーディネーター
西村 幸夫氏
(日本イコモス国内
委員会委員長)



アルフレッド・ルイス・
コンティ氏
(イコモス副会長)



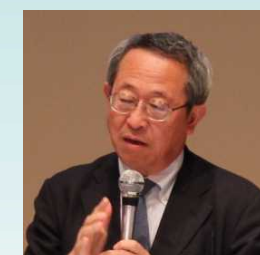
アンドレアス・ゲッツ氏
(前スイス環境庁次官)



五十畑 弘氏
(日本大学教授)



稲葉 信子氏
(筑波大学大学院教授)



岡田 保良氏
(国土舘大学イラク
古代文化研究所教授)



岡本 正男氏
(全国治水砂防協会
理事長)

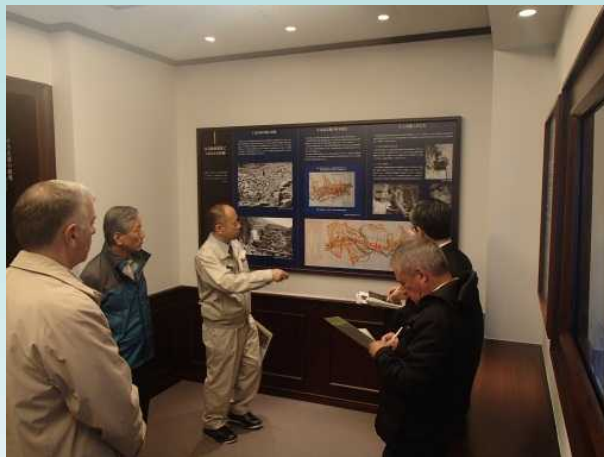
- ・ヨーロッパのコンセプトを学び、ヨーロッパより厳しい条件の日本において対応できるように改良して、再び世界の防災技術の発展に寄与している。
- ・土木遺産は、本来の機能が維持・継続されていることが重要。
- ・砂防技術者では、「立山見ずして砂防を語るな」と言われている。間違いなく日本一の砂防である。

今後のやるべきこと(石井富山県知事まとめ)

推薦する範囲をどうするか。情報のアンバサダー(大使)が重要。学術的にも広く支持を得る。国内の国際会議で論文を積極的に発表していく。



11月3日(月・祝)に開催した国際フォーラムに先立ち1日(土)にフォーラム参加者による立山博物館と立山カルデラ砂防博物館の視察が実施されました。(本田立山カルデラ砂防博物館長と長井立山砂防事務所長による説明)



国際フォーラムの開催にあわせて「立山砂防展(同ビル4Fスカイギャラリー)」を開催しました。

